

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7117920号

(P7117920)

(45)発行日 令和4年8月15日(2022.8.15)

(24)登録日 令和4年8月4日(2022.8.4)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/15 2 2 0

A 6 1 F 13/514 (2006.01)

A 6 1 F 13/514 4 0 0

A 6 1 F 13/476 (2006.01)

A 6 1 F 13/476

請求項の数 14 (全19頁)

(21)出願番号 特願2018-128872(P2018-128872)

(22)出願日 平成30年7月6日(2018.7.6)

(65)公開番号 特開2020-5847(P2020-5847A)

(43)公開日 令和2年1月16日(2020.1.16)

審査請求日 令和3年7月1日(2021.7.1)

(73)特許権者 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地

(74)代理人 100134072

弁理士 白浜 秀二

(74)代理人 100066267

弁理士 白浜 吉治

(72)発明者 丸山 貴史

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 -

7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル

センター内

(72)発明者 黒田 賢一郎

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 -

7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル

センター内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 吸収性物品の個包装体、個包装体の集合体及び個包装体の収容パッケージ

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含む吸収性物品の個包装体において、

前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、

前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、

前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁をさらに有し、

前記第 1 側縁の形状と前記第 2 側縁の形状とが互いに異なり、

前記吸収性物品は、前記幅方向において互いに対向する一対のウイング部をさらに有し、

前記一対のウイング部の形状が互いに異なることを特徴とする前記個包装体。

【請求項 2】

包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含む吸収性物品の個包装体において、

前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、

前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、

前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部をさらに有し、前記識別

手段は、前記第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であることを特徴とする個包装体。

【請求項 3】

前記包装シートの全光線透過率は、10%以上90%未満である請求項 1 又は 2 に記載の個包装体。

【請求項 4】

前記吸収性物品は、前記幅方向において互いに対向する一対のウイング部をさらに有し、前記装飾域は、前記ウイング部の前記長手方向へ延びる折曲ラインよりも前記幅方向の外側に延在する請求項 2 に記載の個包装体。

【請求項 5】

前記吸収性物品は、前記裏面シートの外面に位置する止着域を被覆するセパレータをさらに有し、前記第 1 側縁部において、前記セパレータの一方側縁から前記装飾域が前記幅方向の外側へ延在している請求項 2 又は 4 に記載の個包装体。

【請求項 6】

前記包装シートは装飾域を有し、前記包装シートの前記装飾域と前記吸収性物品の前記装飾域とが互いに重なり合う請求項 2 , 4 又は 5 のいずれかに記載の個包装体。

【請求項 7】

前記吸収性物品は、前記長手方向の寸法を 2 等分する横断中心線と、前記幅方向へ延びる第 1 端縁とを有し、

前記装飾域は、前記第 1 側縁部のうちの前記横断中心線と前記第 1 端縁との間にのみ位置する請求項 2 に記載の個包装体。

【請求項 8】

前記吸収性物品は、前記長手方向の寸法を 2 等分する横断中心線と、前記幅方向へ延びる第 1 端縁とを有し、

前記装飾域は、前記第 1 側縁部のうちの前記横断中心線と前記第 1 端縁との間にのみ存在しない請求項 2 に記載の個包装体。

【請求項 9】

複数の個包装体の集合体において、

前記個包装体は、包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含み、

前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、

前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、

前記識別手段は、前記吸収性物品の前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であって、

前記複数の個包装体ごとに前記装飾域の装飾要素が異なることを特徴とする前記集合体。

【請求項 10】

前記複数の個包装体は、互いに隣接して並んでおり、かつ、外形寸法が互いに実質的に等しい第 1 個包装体と第 2 個包装体とを少なくとも有し、前記第 1 個包装体と第 2 個包装体とは、前記装飾域の装飾要素が互いに異なる請求項 9 に記載の集合体。

【請求項 11】

前記複数の個包装体は、第 1 個包装体と、前記第 1 個包装体よりも外形寸法の大きな第 2 個包装体とを少なくとも有し、前記第 1 個包装体と前記第 2 個包装体とは、前記装飾域の装飾要素が互いに異なる請求項 9 に記載の集合体。

【請求項 12】

複数の個包装体を収容する収容パッケージにおいて、

前記個包装体は、包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含み、

前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏

10

20

30

40

50

面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、

前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、

前記識別手段は、前記吸収性物品の前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であって、

前記装飾域の向きが合うように、前記複数の個包装体が互いに同じ向きに収容されていることを特徴とする収容パッケージ。

【請求項 1 3】

第 1 方向とそれに交差する第 2 方向と、第 1 方向において対向する第 1 面及び第 2 面をさらに有し、前記個包装体は前記第 2 方向へ複数並んで配置され、かつ、前記第 1 方向において前記装飾域の向きが合うように同じ向きに収容されており、

10

前記第 1 及び第 2 面のうちの前記第 1 面にのみパッケージ装飾域が配置されており、

前記個包装体の前記装飾域は前記パッケージ装飾域と対向する請求項 1 2 に記載の収容パッケージ。

【請求項 1 4】

第 1 方向とそれに交差する第 2 及び第 3 方向と、第 1 方向において対向する第 1 面及び第 2 面をさらに有し、前記個包装体は、前記第 2 方向へ複数並んで配置され、かつ、前記第 3 方向において互いに前記装飾域の向きが合うように同じ向きに収容されており、

前記第 1 面は、前記第 3 方向において対向する第 1 側部と第 2 側部とを有し、前記第 1 側部にはパッケージ装飾域が位置し、前記個包装体の前記装飾域は前記第 1 側部側に位置している請求項 1 2 に記載の収容パッケージ。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0 0 0 1】

この発明は吸収性物品に関し、より詳しくは、軽失禁パッド、パンティライナ、生理用ナプキン、おりもの吸収用パッド、尿吸収パッド、大人用及び子供用の使い捨ておむつ等の吸収性物品の個包装体、個包装体の集合体及び複数の個包装体を収容した収容パッケージに関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

30

従来、吸収性物品の個包装体及び複数の個包装体を収容した収容パッケージは公知である。例えば、特許文献 1 には、生理用ナプキンと生理用ナプキンを包被する包装シートとを備えた個包装体が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0 0 0 3】

【文献】特開 2 0 0 5 - 1 8 5 8 5 8 公報

【0 0 0 4】

特許文献 1 に開示された吸収性物品においては、吸収性物品の外面に着色された装飾域が配置されていることから、装飾域が包装シートを介して透視されて、個包装体の意匠性を向上させることができる。

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 5】

しかし、装飾域は、一様に同じ柄のデザインが複数配置されて構成されていることから方向性を有するものではなく、着用者が包装シートから吸収性物品を取り出して使用しようとするときに、内部に収容された生理用ナプキンの向きを把握し難い。したがって、包装シートから生理用ナプキンを取り出して展開する度に、生理用ナプキンの向きが異なることがある。着用者は、生理用ナプキンの前後を把握したうえでショーツ等の被服に止着する必要があるので、前後を瞬時に把握することができないために躊躇して操作する手が

50

止まったり、逆向きにしたりすることがあり、取付操作をスムーズに行うことができない。

【 0 0 0 6 】

本発明は、内部に収容された吸収性物品の向きを外部から把握することができる個包装体、個包装体の集合体及び複数の個包装体を収容した収容パッケージの提供を課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

本願の第 1 及び第 2 発明は、包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含む吸収性物品の個包装体に関する。

【 0 0 0 8 】

第 1 発明に係る個包装体は、前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁をさらに有し、前記第 1 側縁の形状と前記第 2 側縁の形状とが互いに異なり、
前記吸収性物品は、前記幅方向において互いに対向する一対のウイング部をさらに有し、前記一対のウイング部の形状が互いに異なることを特徴とする。

10

【 0 0 0 9 】

本願の第 2 発明に係る個包装体は、前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部をさらに有し、前記識別手段は、前記第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であることを特徴とする。

20

【 0 0 1 0 】

本願の第 3 発明は、複数の個包装体の集合体において、前記個包装体は、包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含み、前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、前記識別手段は、前記吸収性物品の前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であって、前記複数の個包装体ごとに前記装飾域の装飾要素が異なることを特徴とする前記集合体に関する。

30

【 0 0 1 1 】

本願の第 4 発明は、複数の前記個包装体を収容する収容パッケージにおいて、前記個包装体は、包装シートと、前記包装シートに折り畳まれた状態で包被される吸収性物品とを含み、前記吸収性物品は、長手方向及び幅方向を有し、透液性の表面シートと、不透液性の裏面シートと、前記表裏面シート間に介在された吸収体とを備え、前記吸収性物品は、折り畳まれた状態において、前記包装シートを介して外部に視認可能な前記幅方向の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有し、前記識別手段は、前記吸収性物品の前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域であって、前記装飾域の向きが合うように、前記複数の個包装体が互いに同じ向きに収容されていることを特徴とする前記収容パッケージに関する。

40

【 0 0 1 2 】

本願の第 1 発明に係る個包装体は、以下の実施態様を含む。下記の実施態様は、単独の構成のほかに、任意に選択して複数の実施態様に係る構成を組み合わせることができる。
(1) 前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第 1 及び第 2 側縁部をさらに有し、前記識別手段は、前記第 1 及び第 2 側縁部のうちの前記第 1 側縁部にのみ配置された装飾域である。

50

(2) 前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第1及び第2側縁をさらに有し、前記第1側縁の形状と前記第2側縁の形状とが互いに異なる。

(3) 前記包装シートの全光線透過率は、10%以上90%未満である。

(4) 前記吸収性物品は、前記幅方向において互いに対向する一対のウイング部をさらに有し、前記装飾域は、前記ウイング部の前記長手方向へ延びる折曲ラインよりも前記幅方向の外側に延在する。

(5) 前記吸収性物品は、前記裏面シートの外面に位置する止着域を被覆するセパレータをさらに有し、前記第1側縁部において、前記セパレータの一方側縁から前記装飾域が前記幅方向の外側へ延在している。

(6) 前記包装シートは装飾域を有し、前記包装シートの前記装飾域と前記吸収性物品の前記装飾域とが互いに重なり合う。

10

(7) 前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第1及び第2側縁部と、前記第1側縁部に位置する第1装飾域と、前記第2側縁部に位置する第2装飾域とをさらに有し、前記第1装飾域の総面積と前記第2着色域の総面積とが互いに異なる。

(8) 前記吸収性物品は、前記長手方向へ延びる第1及び第2側縁部と、前記第1側縁部に位置する着色された第1装飾域と、前記第2側縁部に位置する着色された第2装飾域とをさらに有し、前記第1装飾域の着色された色と前記第2装飾域の着色された色とが互いに異なる。

(9) 前記吸収性物品は、前記長手方向の寸法を2等分する横断中心線と、前記幅方向へ延びる第1端縁とを有し、前記装飾域は、前記第1側縁部のうちの前記横断中心線と前記第1端縁との間にのみ位置する。

20

(10) 前記吸収性物品は、前記長手方向の寸法を2等分する横断中心線と、前記幅方向へ延びる第1端縁とを有し、前記装飾域は、前記第1側縁部のうちの前記横断中心線と前記第1端縁との間にのみ存在しない。

【0013】

本願の第2発明に係る個包装体は、以下の実施態様を含む。下記の実施態様は、単独の構成のほかに、任意に選択して複数の実施態様に係る構成を組み合わせることができる。

(1) 前記吸収性物品は、前記長手方向の寸法を2等分する横断中心線と、前記幅方向へ延びる第1及び第2折曲線とをさらに有し、前記横断中心線は、前記長手方向において前記第1折曲線と前記第2折曲線との間に位置しており、前記識別手段は、前記第1折曲線を前記長手方向へ跨ぐ装飾域であって、前記装飾域は前記横断中心線よりも前記第2折曲線側に配置されていない。

30

【0014】

本願の第3発明に係る集合体は、以下の実施態様を含む。下記の実施態様は、単独の構成のほかに、任意に選択して複数の実施態様に係る構成を組み合わせることができる。

(1) 前記複数の個包装体は、互いに隣接して並んでおり、かつ、外形寸法が互いに実質的に等しい第1個包装体と第2個包装体とを少なくとも有し、前記第1個包装体と第2個包装体とは、前記装飾域の装飾要素が互いに異なる。

(2) 前記複数の個包装体は、第1個包装体と、前記第1個包装体よりも外形寸法の大きな第2個包装体とを少なくとも有し、前記第1個包装体と前記第2個包装体とは、前記装飾域の装飾要素が互いに異なる。

40

【0015】

本願の第4発明に係る収容パッケージは、以下の実施態様を含む。下記の実施態様は、単独の構成のほかに、任意に選択して複数の実施態様に係る構成を組み合わせることができる。

(1) 第1方向とそれに交差する第2方向と、第1方向において対向する第1面及び第2面をさらに有し、前記個包装体は前記第2方向へ複数並んで配置され、かつ、前記第1方向において前記装飾域の向きが合うように同じ向きに収容されており、前記第1及び第2面のうちの前記第1面にのみパッケージ装飾域が配置されており、前記個包装体の前記装飾域は前記パッケージ装飾域と対向する。

50

(2) 第1方向とそれに交差する第2及び第3方向と、第1方向において対向する第1面及び第2面をさらに有し、前記個包装体は、前記第2方向へ複数並んで配置され、かつ、前記第3方向において互いに前記装飾域の向きが合うように同じ向きに収容されており、前記第1面は、第3方向において対向する第1側部と第2側部とを有し、前記第1側部にはパッケージ装飾域が位置し、前記個包装体の前記装飾域は前記第1側部側に位置している。

【発明の効果】

【0016】

本願に係る吸収性物品の個包装体、個包装体の集合体及び個包装体の収容パッケージにおいては、個包装体の内部に収容された収容物品の向きを外部から把握することができるので、スムーズに取り付け操作を行うことができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0017】

図面は、本発明の特定の実施の形態を示し、発明の不可欠な構成ばかりでなく、選択的及び好ましい実施の形態を含む。

【図1】本発明に係る個包装体の斜視図。

【図2】止着テープの止着を解除して、包装シートの一部を展開した状態における個包装体の斜視図。

【図3】生理用ナプキン表面側から見た平面図。

【図4】生理用ナプキン裏面側から見た平面図。

20

【図5】個包装体を展開した状態を示す図。

【図6】第2実施形態に係る個包装体の図5と同様の図。

【図7】(a)第3実施形態に係る個包装体の斜視図。(b)第4実施形態に係る個包装体の斜視図。

【図8】(a)第5実施形態に係る吸収性物品の平面図。(b)第5実施形態に係る個包装体の斜視図。

【図9】(a)第6実施形態に係る吸収性物品の平面図。(b)第6実施形態に係る個包装体の斜視図。

【図10】(a)複数の個包装体からなる集合体の斜視図。(b)実施例の一例における、集合体の斜視図。

30

【図11】複数の個包装体を収容した収容パッケージの一部破断斜視図。

【図12】(a)実施例の一例における収容パッケージの一部破断斜視図。(b)他の実施例の一例における収容パッケージの一部破断斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0018】

下記の実施の形態は、添付の図面に示す吸収性物品に関し、発明の不可欠な構成ばかりではなく、選択的及び好ましい構成を含む。以下、添付の図面を参照して、この発明に係る吸収性物品の一例である生理用ナプキン10の実施形態を説明する。

【0019】

図1～3を参照すると、包装体100は、長手方向Yと、幅方向Xと、厚さ方向Zとを有し、包装シート101に包被された生理用ナプキン10を含む。包装体100の各方向X, Y, Zは、図2に示すような展開した状態において、生理用ナプキン10の長手方向、幅方向、厚さ方向と一致する。図1を参照すると、包装体100は、生理用ナプキン10が収容された包装状態において、幅方向Xにおいて対向する一対の第1縁部102, 103と、第1及び第2縁部102, 103に交差して幅方向Xへ延びる第3及び第4縁部104, 105とを有する。

40

【0020】

図2を参照すると、包装シート101は、熱可塑性合成樹脂の繊維不織布、合成樹脂フィルム、繊維不織布と合成樹脂フィルムとのラミネートシートとから形成される。包装シート101は、展開された状態において、長手方向Yにおいて互に対向するシート第1

50

及び第２端縁１０１ａ，１０１ｂと、幅方向Ｘにおいて対向するシート両側縁１０１ｃ，１０１ｄとをさらに有する。包装シート１０１が、不織布製である場合には、質量が５～５０ｇ／ｍ^２であることが好ましい。不織布製の包装シート１０１の質量が５ｇ／ｍ^２未満の場合には、比較的的肉薄となつて、展開操作するとき包装シート１０１の一部が破れてしまい操作し難くなるおそれがあり、一方、質量が５０ｇ／ｍ^２以上の場合には、比較的的肉厚となつて、生理用ナプキン１０に配置された、後記の識別手段をなす装飾域４０が視認され難くなるおそれがある。

【００２１】

生理用ナプキン１０は、長手方向Ｙと、幅方向Ｘと、厚さ方向Ｚと、その幅方向Ｘにおける寸法を２等分する縦断中心線Ｐと、長手方向Ｙの寸法を２等分する横断中心線Ｑとを有する。生理用ナプキン１０は、肌対向面側及びその反対側の非肌対向面側と、肌対向面側に位置する透液性の表面シート１１と、非肌対向面側に位置する不透液性の裏面シート１２と、これら両シート１１，１２間に位置する吸液性の吸収体２０とを含む。

10

【００２２】

生理用ナプキン１０は、略十字状の形状を有し、その外形線は、長手方向Ｙの内側に向かって凹曲する第１及び第２端縁１０ａ，１０ｂと、横断中心線Ｑと交差する部分において幅方向Ｘの外側へ凸曲する第１及び第２側縁１０ｃ，１０ｄとから画成されている。

【００２３】

なお、図示していないが、生理用ナプキン１０の柔軟性を向上させるために、表面シート１１と吸収体２０との間に比較的の嵩高の繊維不織布製の間シートを配置してもよい。

20

【００２４】

吸収体２０は、第１端縁１０ａと対向する第１端縁２０ａと第２端縁１０ｂと対向する第２端縁２０ｂと、第１及び第２端縁１０ａ，１０ｂ間において長手方向へ延びる第１及び第２側縁２０ｃ，２０ｄとを有する。表裏面シート１１，１２は、吸収体２０の外周から外方へ延出しており、表面シートの肌対向面側には、幅方向Ｘにおいて互いに対向するように長手方向Ｙへ延びる一対のサイドシート１４が配置される。一対のサイドシート１４は、表面シート１１にサイド接着部を介して接合される。

【００２５】

生理用ナプキン１０は、幅方向Ｘへ延びる第１及び第２端部１５，１６と、長手方向Ｙへ延びる第１及び第２側縁部１７，１８とを有する。第１及び第２側縁部１７，１８は、それぞれ、幅方向Ｘの外側へ凸となるウイング部１９を有する。第１端部１５と第２端部１６とには、それぞれ、吸収体２０の第１端縁２０ａと第２端縁２０ｂとが位置し、第１側縁部１７と第２側縁部１８とには、それぞれ、吸収体２０の第１側縁２０ｃと第２側縁２０ｄとが位置する。生理用ナプキン１０は、吸収体２０の外周縁から延出する外周縁部をさらに有する。外周縁部を形成するように互いに積層されたシートは、生理用ナプキン１０の外周縁に沿って位置する外周シール部７を介して互いに接合されている。生理用ナプキン１０の外周にシートを熱溶着した外周シール部７が位置することによってその外形が明瞭となつて、より包装シート１０１を介して透視され易くなるといえる。

30

【００２６】

図５を参照すると、生理用ナプキン１０の裏面側には、複数の止着域５０が配置される。複数の止着域５０は、生理用ナプキン１０を下着等の被服に止着するためのものであって、長手方向Ｙへ延びる複数のライン状に塗布された粘着剤や感圧性接着剤から形成される。止着域５０は、吸収体２０と重なる領域において長手方向Ｙへ延びる中央止着域５１と、ウイング部１９に位置するサイド止着域５２とを有し、使用する前には、それぞれ、セパレータ２８，２９によって被覆される。

40

【００２７】

表面シート１１には、開口プラスチックフィルム、織布、不織布等の体液に含まれる液体成分を透過可能なシートを好適に用いることができる。裏面シート１２には、ポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂を主体とした熱可塑性樹脂フィルム、通気性を付与した熱可塑性樹脂フィルムなどを好適に用いることができる。サイドシート１４には、

50

表面シート 11 と同様のシート材を用いることができる。但し、生理用ナプキン 10 の外側へ体液が流れにくくするためには、疎水性もしくは撥水性を有するシート材を用いることが好ましい。

【0028】

外周シール部 7 における各シートの接合は、接着剤による接合、超音波溶着、熱溶着、レーザー溶着、高周波溶着等の公知の溶着手段による接合、及びエンボス加工による接合を、単独又は組み合わせて行うことができる。また、厚さ方向 Z において積層されたシートは、ホットメルト接着剤等の接着剤を介して互いに接合される。ホットメルト接着剤の塗工方法としては、スパイラル塗工、コーター塗工、カーテンコーター塗工、スプレー塗工などの各種公知の塗工方法が挙げられる。

10

【0029】

吸収体 20 は、所要の形状に賦形された吸液性コアを含んでおり、コアラップシートに包被されていることが好ましい。吸液性コアは、不水溶性の超吸収性ポリマー粒子（SAP 粒子）と、フラップ木材パルプ（パルプ繊維）やレーヨン繊維等のセルロース系繊維とからなる吸収性・離散性材料を有する。吸収体 20 のウイング部 19 間に位置する領域は、着用者の膣口対向域であって、該領域には、吸収体 20 が他の部分に比して肉厚にされた中高部分 21 が位置する。

【0030】

図 2 及び図 3 を参照すると、生理用ナプキン 10 は、ウイング部 19 の基端部分を縦断して延びる一对の縦折曲線 5, 6 を有し、縦折曲線 5, 6 に沿ってウイング部 19 を表面側に向かって幅方向 X の内側へ折り曲げた状態で包装シート 101 の内面に配置される。包装シート 101 は、幅方向 X へ延びる第 1 及び第 2 折曲線 111, 112 と、第 2 折曲線 112 と第 1 端縁 101a との間に位置する第 1 区域 121 と、第 1 折曲線 111 と第 2 端縁 101b との位置する第 2 区域 122 と、第 1 折曲線 111 と第 2 折曲線 112 との間に位置する中間区域（第 3 区域）123 とをさらに有する。一对の縦折曲線 5, 6 は、ウイング部 19 の基端部と重なる仮想ラインのほかに、ウイング部 19 の長手方向 Y において対向して位置して幅方向の外側へ凸曲した部分をつなぐ仮想ラインであってもよいし、表面シート 11 の表面側に固定された一对のサイドシート 14 の内側縁部（カフ弾性体を有する場合には折曲部分）に沿う、シートの積層枚数によって幅方向 X の内側と外側とで剛性が変化する、仮想ラインであってもよい。

20

30

【0031】

包装シート 101 は、内面 100a に生理用ナプキン 10 が配置された状態で、第 1 折曲線 111 に沿って第 2 区域 122 を中間域 123 の内面に向かって折り曲げ、さらに、第 2 折曲線 112 に沿って第 1 区域 121 を中間区域 123 に向かって折り曲げて、3 つ折りに折り畳まれた状態で積層される。包装シート 101 の第 1 区域 121 の外面に位置する止着テープ 130 を対向する第 1 区域 122 に止着することによって積層された状態が維持されて個包装体 100 が形成される。個包装体 100 の内部に異物等が侵入するのを防止するために、第 1 及び第 2 縁部 102, 103 はシール部 139 によって接合される。

【0032】

40

生理用ナプキン 10 は、折り畳まれた状態において、包装シート 101 を介して外部に視認可能な幅方向 X の一方側と他方側とを識別させるための識別手段を有する。本実施形態においては、識別手段は、裏面シート 11 に配置された装飾域 40 から構成されている。また、包装シート 101 は、生理用ナプキン 10 の識別手段と同様の識別要素、本実施形態の場合には、生理用ナプキン 10 の装飾域 40 と同じデザインを有する装飾域を有していてもよい。装飾域 40 は、裏面シート 12 の内面又は外面のいずれに配置されていてもよい。ただし、印刷によるインクの脱落を防止するために、裏面シート 12 の内面に装飾域 40 が配置されていることが好ましい。

【0033】

装飾域 40 は、着色された複数の独立した装飾部 41 から形成されており、生理用ナプ

50

キン 10 の表面側及び裏面側から少なくとも一部が視認可能であるのに加えて、個包装体 100 において包装シート 101 を介して透視可能である。装飾域 40 は、生理用ナプキン 10 の第 1 及び第 2 側縁部 17, 18 のうちの第 1 側縁部 17 にのみ配置されていることから、着用者等は、生理用ナプキン 10 の表面視及び裏面視において、装飾域 40 が配置された第 1 側縁部 17 と装飾域 40 が配置されていない第 2 側縁部 18 とを識別することができる。その意味において、装飾域 40 は、生理用ナプキン 10 の幅方向 X の一方側と他方側とを識別することのできる識別手段といえる。

【0034】

装飾部 41 は、大小の略三角形であって、生理用ナプキン 10 の第 1 及び第 2 側縁部 17, 18 のうちの第 1 側縁部 17 にのみ互いに独立した状態で配置されている。装飾部 41 は、長手方向 Y 及び幅方向 X において互いに間隔を空けて配置されている態様、平面視において一部が互いに重なり合っている態様等の複数の配置態様を有する。

10

【0035】

装飾部 41 は、本発明の後記の技術的効果を奏する限りにおいて、図示した形状のほか、略円形、略楕円形、略四角形、略台形、略星形、花卉形及びその他の各種公知の装飾模様、文字（例えば、「右、左」の文字表示等）、キャラクター等の形状を有していてもよい。また、装飾部 41 は全体として着色されており、着色される色は、酸化チタン等の白色顔料を添加することによって白色化された生理用ナプキンを構成するシート材料及び吸液性コアと視覚上明瞭に識別できる色であればよく、例えば、赤色、青色、黄色、緑色等の着用者等の注意を惹きつけるような色合いであることが好ましい。また、裏面シート 12 及び / 又は包装シート 101 全体が白色以外に着色されている場合には、装飾部 41 は、その着色されて色と補色関係にある色に着色されていることが好ましい。

20

【0036】

本明細書における「白色」とは、マンセル表色系で「N9.5」と表される色や、RGB 色空間で「255, 255, 255」と表される色、所謂、「真っ白」を例示することができる。また、「真っ白」と同じ系統色である、色、具体的には、「真っ白」との色差が 0 以上、12 未満である色も「白色」に含まれる。「白色」以外の色が有色であり、寒色はこの部類に属する。具体的には、上記に定義した「白色」との色差が 40 以上の色であることが好ましい。白色の特定方法は、白色に対する色差で比較でき、例えば、コニカミノルタ社製の色彩色差計 CR-300 を用いて特定することができる。

30

【0037】

識別手段を構成する装飾域 40 は、包装シート 101 を介して透視される限りにおいては、裏面シート 12 の外面側ではなく、その内面側、又は、表面シート 11、サイドシート 14、吸収体 20 を構成するコアカバーシート等の表面側又は裏面側に配置されているもよい。さらに、装飾域 40 は各シートに直接印刷されるもののほかに、シール、パッチ等の別体を貼付したものであってもよい。

【0038】

再び、図 1 を参照すると、生理用ナプキン 10 の第 1 及び第 2 側縁部 17, 18 のうちの第 1 側縁部 17 にのみ装飾域 40 が配置されていることによって、個包装体 100 において、第 1 側縁部 17 が折り重ねられた第 1 縁部 102 側において装飾域 40 が透視される一方、装飾域 40 が配置されていない第 2 側縁部 18 が折り重ねられた第 2 縁部 103 側には、装飾域 40 が透視されることはない。したがって、個包装体 100 は、第 1 縁部 102 側と第 2 縁部 103 側とにおいて異なるデザインを有する。

40

【0039】

通常、生理用ナプキン等の吸収性物品の個包装体は、折り畳まれた状態で包装シートに收容された略矩形状を有するものであるから、展開したときに、生理用ナプキンがどの向きに收容されているのか判断することが難しい。すなわち、展開したときに、生理用ナプキンの前方側が着用者の手前に位置するのか、後方側が手前に位置するのか判断することができないことから、展開して使用すること、生理用ナプキンの前後を確認する必要がある、手間である。また、生理用ナプキンの形態が前後で非対称の場合であっても、その

50

非対称となる要素が、止着域の長さが前後で異なることであったり、吸収体の質量が前後で異なることである場合には、着用者が一見してその差異を容易に判別することができるものではない。

【 0 0 4 0 】

本実施形態においては、着用者等は、個包装体 1 0 0 が幅方向 X において対向する第 1 縁部 1 0 2 側と第 2 縁部 1 0 3 側とが互いに異なるデザインを有することによって、個包装体 1 0 0 における幅方向 X の一方側と他方側とを容易に識別することができる。また、生理用ナプキン 1 0 の第 1 側縁部 1 7 にのみ識別手段を構成する装飾域 4 0 が位置することによって、個包装体 1 0 0 の第 1 縁部 1 0 2 側が生理用ナプキン 1 0 の第 1 側縁部 1 7 が位置する側であって、図 5 に示すように、包装シート 1 0 1 を展開したときに、手前に後方側、奥に前方側が位置することを容易にイメージすることができる。

10

【 0 0 4 1 】

このように、包装シート 1 0 1 から透視される識別手段を介して生理用ナプキン 1 0 の向きを把握することができるので、例えば、複数の個包装体 1 0 0 を縦置きしたり平置きして並べる場合において、識別手段が位置する第 1 縁部 1 0 2 を同じ方向に揃えて並べることによって、着用者はスムーズに展開操作を行うことができる。

【 0 0 4 2 】

着用者は、識別手段の機能的な説明について何らの情報を与えられなかったとしても、個包装体 1 0 0 を複数回使用することによって、識別手段（装飾域 4 0）が生理用ナプキンの向きを知らせる識別機能を有するものであることを把握することができるようになるが、かかる機能を予め知らせるために、例えば、複数の個包装体 1 0 0 を収容した収容パッケージの外面に識別手段の機能について説明した説明書きやイメージ図を付しておくことが好ましい。

20

【 0 0 4 3 】

装飾域 4 0 が包装シート 1 0 1 から透視されるためには、包装シート 1 0 1 の全光線透過率は、少なくとも 1 0 %、すなわち、1 0 % 以上であることが好ましい。かかる全光線透過率が 1 0 % 未満の場合には、装飾域 4 0 が視認され難く着用者が生理用ナプキン 1 0 の向きを判断することができないおそれがある。一方、包装シート 1 0 1 の全光線透過率が仮に 1 0 0 % である場合には、装飾域 4 0 の視認は容易になるが、製品自体がすべて透視されてしまうことになり、個包装体に収容された生理用ナプキン 1 0 等の吸収性物品を所持していることが他人に知られてしまい、恥ずかしい思いを強いられるおそれがある。したがって、全光線透過率は、9 0 % 未満であることが好ましい。

30

【 0 0 4 4 】

装飾域 4 0 は、ウイング部 1 9 の長手方向 Y へ延びる縦折曲線 5 , 6 よりも幅方向 X の外側に延在している。したがって、ウイング部 1 9 が縦折曲線 5 , 6 に沿って幅方向 X の内側へ折り曲げられた状態において、縦断折曲線 5 , 6 上に位置する装飾域 4 0 が厚さ方向 Z において重ねられて、着色された色がより濃くなって視認性が向上する。

【 0 0 4 5 】

また、裏面シート 1 2 の外面において、止着域 5 0 を被覆しているセパレータ 2 8 , 2 9 の両側縁から幅方向 X の外側へ延在している。セパレータ 2 8 , 2 9 は、比較的的肉厚なクラフト紙やグラシン紙、プラスチックフィルムにシリコーンを塗布したもの等から形成されるものであるから、装飾域 4 0 全体がセパレータ 2 8 , 2 9 に被覆されている場合には視認性が低下するおそれがあるところ、少なくとも一部がセパレータ 2 8 , 2 9 の一方縁から延在していることによって、包装シート 1 0 0 から装飾域 4 0 を容易に透視することができるといえる。

40

【 0 0 4 6 】

図示していないが、個包装体 1 0 0 において生理用ナプキン 1 0 の装飾域 4 0 と重なる位置に、包装シート 1 0 1 も着色された装飾域を有していてもよい。かかる場合には、装飾域 4 0 と包装シート 1 0 1 の装飾域とが少なくとも一部で互いに重なり合うことによって視認性が向上し、個包装体 1 0 0 及び生理用ナプキン 1 0 の幅方向 X の一方側と他方側

50

とをより識別しやすくなる。

【 0 0 4 7 】

< 第 2 実施形態 >

図 6 は、第 2 実施形態に係る個包装体 1 0 0 の図 5 と同様の図である。図 6 を参照すると、本実施形態に係る個包装体 1 0 0 の生理用ナプキン 1 0 では、第 1 側縁 1 0 c は、直線状部分を組み合わせる起伏のない線状であるのに対し、第 2 側縁 1 0 d が複数の括れ部分を有する起伏のある線状を有する。生理用ナプキンの第 1 及び第 2 側縁 1 0 c , 1 0 d は、包装シート 1 0 1 から透視可能である。したがって、個包装体 1 0 0 において折り畳んで収容された状態において、個包装体 1 0 0 は、第 1 側縁 1 0 c が位置する第 1 縁部 1 0 2 側と第 2 縁部 1 0 d が位置する第 2 縁部 1 0 3 側とにおいて互いに異なるデザインを有し、着用者は、個包装体 1 0 0 及び生理用ナプキンの幅方向 X における一方側と他方側とを容易に識別することができる。

10

【 0 0 4 8 】

< 第 3 実施形態 >

図 7 (a) は、第 3 実施形態に係る個包装体 1 0 0 の図 1 と同様の斜視図である。本実施形態においては、生理用ナプキン 1 0 の第 1 側縁部 1 7 に第 1 装飾域 1 4 1、第 2 側縁部 1 8 側には第 2 装飾域 1 4 2 がそれぞれ配置されている。第 1 側縁部 1 7 の第 1 装飾域 1 4 1 では装飾部 4 1 が比較的密に配置され、第 2 側縁部 1 8 の第 2 装飾域 1 4 2 では装飾部 4 1 が比較的疎に配置されている。したがって、第 1 側縁部 1 7 に位置する第 1 装飾域 1 4 1 の総面積と第 2 側縁部 1 8 に位置する第 2 装飾域 1 4 2 の総面積とは互いに相異している。

20

【 0 0 4 9 】

このように、生理用ナプキン 1 0 の第 1 側縁部 1 7 に位置する第 1 装飾域 1 4 1 と第 2 側縁部 1 8 に位置する第 2 装飾域 1 4 2 との総面積が互いに異なり、かつ、それらが包装シート 1 0 1 を介して透視されることによって、着用者等は、個包装体 1 0 0 及び生理用ナプキン 1 0 の幅方向 X の一方側と他方側とを容易に識別することができる。

【 0 0 5 0 】

< 第 4 実施形態 >

図 7 (b) は、第 4 実施形態に係る図 1 と同様の斜視図である。図 7 (b) を参照すると、生理用ナプキン 1 0 の装飾域 4 0 は、第 1 側縁部 1 7 のうちの横断中心線 Q と第 1 端縁 1 0 a 側との間に位置する領域にのみ配置されている。かかる場合には、個包装体 1 0 0 の第 1 縁部 1 0 2 において、第 4 縁部 1 0 5 側には、装飾域 4 0 が位置していない。このように、装飾域 4 0 の配置域をさらに限定することによって、着用者は、生理用ナプキン 1 0 の幅方向 X における向きのみならず、長手方向 Y の向きについても識別することができる。

30

【 0 0 5 1 】

また、かかる態様においては、第 1 側縁部 1 7 のうちの横断中心線 Q と第 2 端縁 1 0 b 側との間に位置する領域には装飾域 4 0 が配置されていない。着用者等は、第 2 端縁 1 0 b 側において装飾域 4 0 が配置されていないことを視認することによって、生理用ナプキン 1 0 の幅方向 X における向きのみならず、長手方向 Y の向きについても識別することができる。特に、包装シート 1 0 1 自体が複数の装飾要素を有する場合には、第 1 端縁 1 0 a 側にのみ装飾域 4 0 が存在することよりも、第 2 端縁 1 0 b 側にのみ装飾域 4 0 が存在しないことの方が、着用者に長手方向 Y の向きを外観上識別させ得るものといえる。

40

【 0 0 5 2 】

< 第 5 実施形態 >

図 8 (a) は、第 5 実施形態に係る生理用ナプキン 1 0 の平面図、図 8 (b) は、第 5 実施形態に係る個包装体 1 0 0 の斜視図である。図 8 (a) を参照すると、生理用ナプキン 1 0 の裏面シート 1 1 の内面 (又は外面) には、第 1 端部 1 5 側にのみ識別手段をなす装飾域 4 0 が配置されている。すなわち、生理用ナプキン 1 0 の第 1 及び第 2 側縁部 1 7

50

、18及び第2端部16には装飾域40が配置されていない。

【0053】

図8(b)を参照すると、かかる実施態様においては、個包装体100に生理用ナプキンが3つ折りされて収容された状態において、第1端部15に配置された装飾域40は、個包装体100の長手方向Yにおいて第4縁部105側に位置する。したがって、装飾域40が第4縁部105側において包装シート101から透視されることによって、着用者等は個包装体100及び生理用ナプキン10の長手方向Yの向きを識別することができる。なお、着用者が個包装体100及び生理用ナプキン100の長手方向Yを識別できる限りにおいては、装飾域40は、生理用ナプキン10のうちの横断中心線Qと第1端縁10a(又は第2端縁10b)との間の領域に配置されており、横断中心線Qと第2端縁10b(又は第1端縁10a)との間の領域に配置されていればよい。

10

【0054】

図9(a)は、第6実施形態に係る生理用ナプキン10の平面図、図9(b)は、第6実施形態に係る個包装体100の斜視図である。図9(a)を参照すると、生理用ナプキン10の裏面シート11には、複数の装飾部41からなる装飾域40が、第1折曲線111を跨ぐように長手方向Yへ延在している。具体的には、装飾域40を形成する複数の装飾部41が第1折曲線111と交差するとともに、第1折曲線111よりも第1端縁10a側の部分と第2端縁10b側の部分とに位置している。また、第1折曲線111の第1端縁10a側の部分において、装飾域40は横断中心線Qと第1折曲線111との間に位置しており、横断中心線Qよりも第1端縁10a側(又は第2折曲線112側)には位置していない。

20

【0055】

図9(b)を参照すると、生理用ナプキン10が第1及び第2折曲線111、112に沿って3つ折りにされた状態で包装シート101に収容された状態において、装飾域40は、個包装体100の第4縁部105側に位置している。したがって、装飾域40は、生理用ナプキン10が折り畳まれて包装シート101に収容された状態において、生理用ナプキン10の長手方向Yにおける一方側(第1端縁10a側)と他方側(第2端縁10b側)とを識別するための識別手段であるとともに、個包装体100の長手方向Yにおける一方側(第3縁部104側)と他方側(第4縁部105側)とを識別するための識別手段ともいえる。個包装体100の第4縁部105側では、生理用ナプキン10の装飾域40の位置する部分が折り重ねられていることで着色がより濃くなって外部からより視認され易くなるといえる。

30

【0056】

なお、本実施形態においては、複数の装飾部41からなる装飾域40が、第1折曲線111を跨ぐように長手方向Yへ延在しているが、装飾域40が第1折曲線111ではなく、第2折曲線112を跨ぐように長手方向Yへ延在していてもよい。かかる場合には、装飾域40を形成する複数の装飾部41が第2折曲線112と交差するとともに、第2折曲線112よりも第1端縁10a側の部分と第2端縁10b側の部分とに位置している。また、第2折曲線112よりも第2端縁10b側の部分において、装飾域40は横断中心線Qと第2折曲線112との間に位置しており、横断中心線Qよりも第2端縁10b側(又は第1折曲線111側)には位置していない。

40

【0057】

<複数の個包装体の集合体>

図10(a)は、複数の個包装体100A~100Cからなる集合体200の斜視図、図10(b)は、実施例の一例における、集合体200の斜視図である。なお、集合体200は、図示したように、3種類の個包装体100A~100Cのうちの少なくとも2種類の個包装体を有していればよく、後記の技術的效果を奏する限りにおいて、4種類以上の個包装体を有するものであってもよい。

【0058】

図10(a)を参照すると、集合体200は、第1~第3個包装体100A~100C

50

の幅方向 X を上下方向として縦置きして複数並べてなるものであって、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C は、互いに実質的に等しい外形寸法を有する。第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C に収容された生理用ナプキン 1 0 の識別手段を構成する装飾域 1 8 1 , 1 8 2 , 1 8 3 の装飾要素は互いに相異している。具体的には、第 1 個包装体 1 0 0 A の装飾域 1 8 1 は複数の三角模様、第 2 個包装体 1 0 0 B の装飾域 1 8 2 は複数のドット模様、第 3 個包装体 1 0 0 C の装飾域 1 8 3 は複数の星形模様から形成されている。ここで、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C の外形寸法が実質的に等しいとは、外形寸法の差が 1 0 mm 以内のことを意味する。

【 0 0 5 9 】

このように、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C の外形寸法が実質的に等しい場合であっても、それらの装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 の装飾域が互いに異なることによって、着用者等は第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C を瞬時に識別することができるとともに、それらの収容された吸収性物品 1 0 の向きも瞬時に識別することができる。したがって、例えば、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C の外形寸法が実質的に同じであっても、昼用、夜用等の使用用途等に合わせて装飾要素を変えることによって、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C の使用用途等を容易に把握、識別することができる。なお、装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 は、互いに外観上識別できる限りにおいて、それを構成する複数の装飾部の形状が相違するほかに、装飾部が同一、類似又は非類似の形状を有し、かつ、着色された色が相違される場合を含む。装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 又はそれを構成する複数の装飾部の形状が同じであっても、着色された色が互いに異なることによって、外観上識別することができる。

【 0 0 6 0 】

図 1 0 (b) を参照すると、本実施例においては、第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C は、それぞれ、異なる外形寸法を有する。第 1 個包装体 1 0 0 A は、例えば、比較的に長時間着用する夜用の生理用ナプキンを収容したもの、第 2 個包装体 1 0 0 B は、例えば、昼用の生理用ナプキンを収容したもの、第 3 個包装体 1 0 0 C は、例えば、軽量薄型の生理用ナプキンやパンティライナを収容したものである。第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C に収容された生理用ナプキン 1 0 の識別手段を構成する装飾域 1 8 1 , 1 8 2 , 1 8 3 の装飾要素は互いに相異している。具体的には、第 1 個包装体 1 0 0 A の装飾域 1 8 1 は複数の三角模様、第 2 個包装体 1 0 0 B の装飾域 1 8 2 は複数のドット模様、第 3 個包装体 1 0 0 C の装飾域 1 8 3 は複数の星形模様から形成されている。

【 0 0 6 1 】

このように、サイズの異なる大小様々な第 1 ～ 第 3 個包装体 1 0 0 A ～ 1 0 0 C ごとに異なる装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 を有することから、着用者等は、サイズの相違と併せて、装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 の装飾要素の相違によって、より確実にそれらの用途等を把握、識別することができる。なお、装飾域 1 8 1 ～ 1 8 3 の装飾要素については、柄が同じで色が異なることが好ましい。柄が同じであることによって、例えば、同一サイズにおいて昼用の製品と夜用の製品とを一緒に購入して保管するときにも、色の違いで識別することができる。

【 0 0 6 2 】

< 複数の個包装体の収容パッケージ >

図 1 1 は、複数の個包装体を収容した収容パッケージの一部破断斜視図である。複数の個包装体 1 0 0 が収容された収容パッケージ 3 0 0 の一部破断斜視図である。収容パッケージ 3 0 0 は、複数の個包装体 1 0 0 が並んで配置された第 1 列 3 0 1 と第 2 列 3 0 2 とを含む収容形態を有する。収容パッケージ 3 0 0 の第 1 及び第 2 列 3 0 1 , 3 0 2 においては、識別手段を構成する装飾域 4 0 が上方側に位置するように同じ向きに並んで配置されている。

【 0 0 6 3 】

収容パッケージ 3 0 0 において、複数の個包装体 1 0 0 が同じ向きに並んで配置されており、かつ、識別手段によって個包装体 1 0 0 に収容された生理用ナプキン 1 0 の幅方向

10

20

30

40

50

Xの一方側と他方側とを容易に識別することができることから、着用者は、収容パッケージ300から個包装体100を取り出して使用するとき、スムーズに生理用ナプキン10の着用操作を行うことができる。また、収容パッケージ300の内部には、図10(a)、(b)に示した態様を有する集合体200が複数配置されていてもよい。

【0064】

図12(a)は、実施例の一例における収容パッケージ300の一部破断斜視図である。本実施例に係る収容パッケージ300は、第1方向(長手方向)Aと、それに交差する第2方向(上下方向)Bと、第1方向Aにおいて対向する第1面301及び第2面302を有する。個包装体100は、第2方向Bへ複数並んで配置され、かつ、前記第1方向Aにおいて互いに装飾域40の向きが合うように同じ向きに収容されている。

10

【0065】

収容パッケージ300の第1及び第2面301, 302のうちの第1面301にのみパッケージ装飾域340が配置されている。個包装体100に収容された生理用ナプキン10の装飾域40の一部は、パッケージ装飾域340と第1方向Aにおいて対向して位置している。複数の個包装体100を収容パッケージ300内において、収容パッケージ300の第1面301に位置するパッケージ装飾域340と個包装体100の装飾域40とを位置合わせするように収容することによって、収容パッケージ300内で複数の個包装体100が同程度に圧迫された状態で積層されることから、取り出したときに、個包装体100及び/又は生理用ナプキン10の厚さ寸法が異なることを抑制することができる。

【0066】

20

図12(b)は、他の実施例の一例における収容パッケージ300の一部破断斜視図である。本実施例に係る収容パッケージ300は、第1方向(長手方向)Aと、それに交差する第2方向(上下方向)B及び第3方向(幅方向)Cと、第1方向Aにおいて対向する第1面301及び第2面302を有する。個包装体100は、第2方向Bへ複数並んで配置され、かつ、前記第3方向Cにおいて互いに装飾域40の向きが合うように同じ向きに収容されている。

【0067】

収容パッケージ300の第1面301は、第3方向Cにおいて対向する第1側部301Aと第2側部301Bとを有する。第1側部301Aにはパッケージ装飾域340が位置し、個包装体100の装飾域40は第1側部301A側に位置している。かかる実施例によれば、第1面301にミシン目による取出し口が位置する場合において、第2方向Bに積み重ねられた複数の個包装体100の装飾域40は第1側面301の第1側部301A側に位置することを収容パッケージ300の外部から把握することができるので、個包装体100の収容パッケージ300からの取出しから展開までの操作をスムーズに行うことができる。また、このように、収容パッケージ100のパッケージ装飾域340と個包装体100の装飾域40とを位置合わせするように収容することによって、収容パッケージ300内で複数の個包装体100が同程度に圧迫された状態で積層されることから、取り出したときに、個包装体100及び/又は生理用ナプキン10の厚さ寸法が異なることを抑制することができる。

30

【符号の説明】

40

【0068】

- 5 縦断折曲線
- 6 縦断折曲線
- 10 吸収性物品(生理用ナプキン)
- 10a 第1端縁
- 10b 第2端縁
- 10c 第1側縁
- 10d 第2側縁
- 11 表面シート
- 12 裏面シート

50

- 1 7 第 1 側縁部
- 1 8 第 2 側縁部
- 1 9 ウイング部
- 2 0 吸収体
- 2 8 セパレータ
- 2 9 セパレータ
- 4 0 装飾域
- 4 1 装飾部
- 5 0 止着域
- 5 1 中央止着域
- 5 2 サイド止着域
- 1 0 0 個包装体
- 1 0 0 A 第 1 個包装体
- 1 0 0 B 第 2 個包装体
- 1 0 0 C 第 3 個包装体
- 1 0 1 包装シート
- 1 4 1 第 1 装飾域
- 1 4 2 第 2 装飾域
- 1 8 1 装飾域
- 1 8 2 装飾域
- 1 8 3 装飾域
- 2 0 0 集合体
- 3 0 0 収容パッケージ
- P 縦断中心線
- Q 横断中心線
- X 幅方向
- Y 長手方向

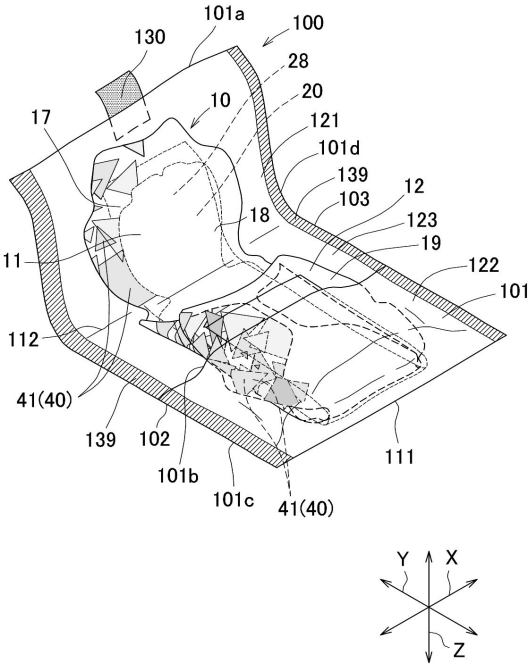
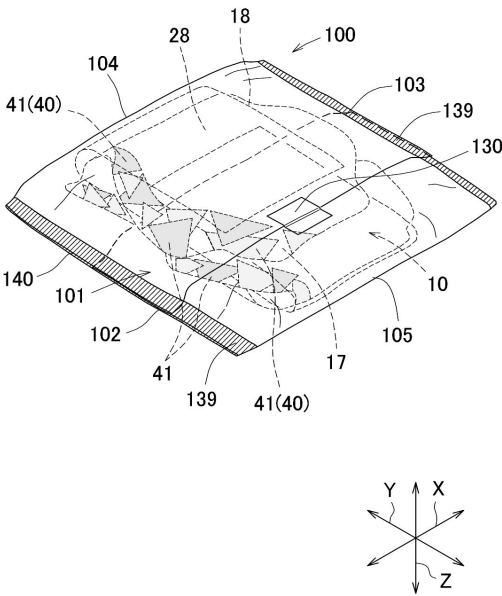
10

20

【図面】
【図 1】

【図 2】

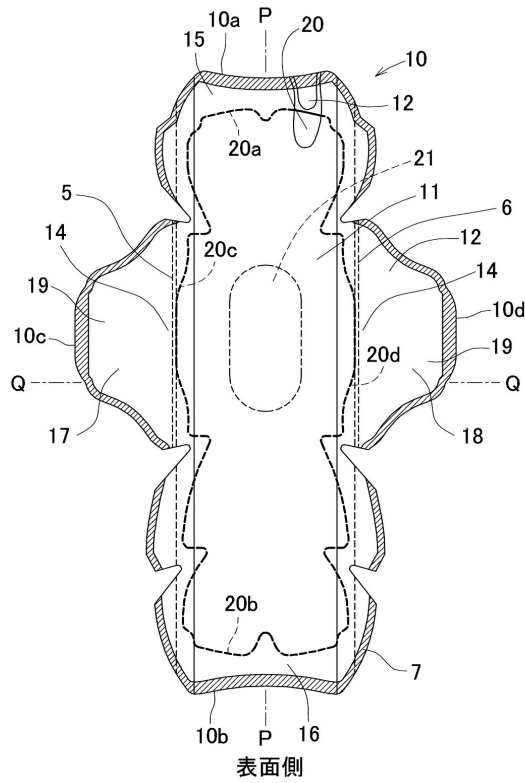
30



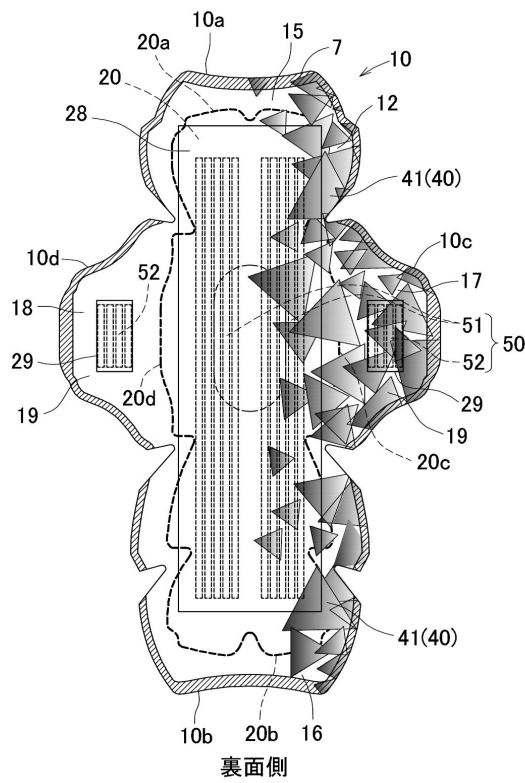
40

50

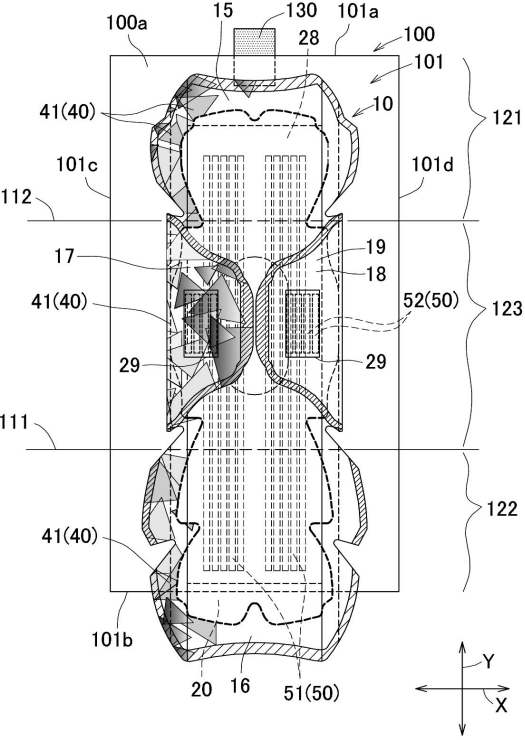
【図 3】



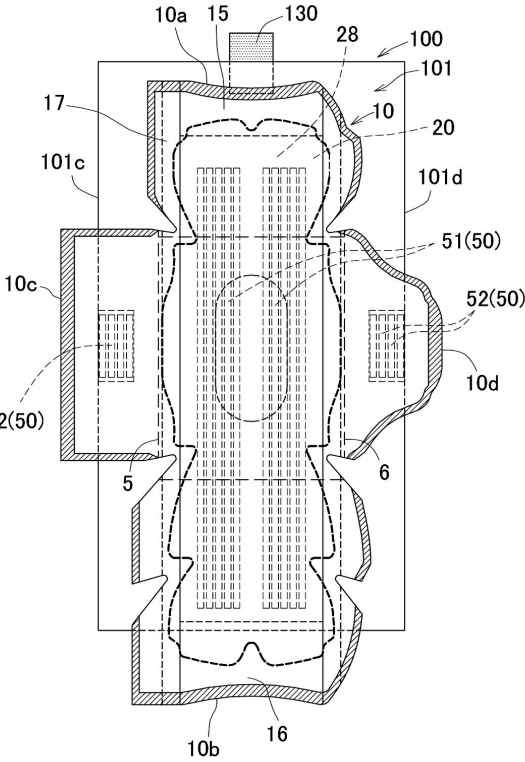
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

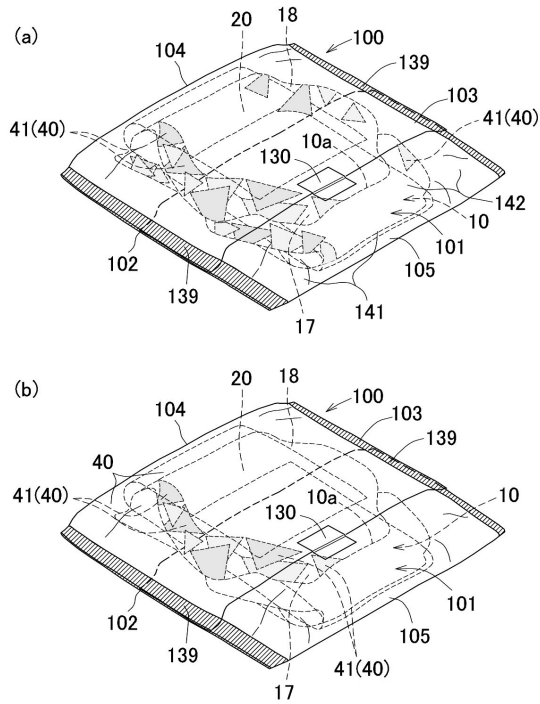
20

30

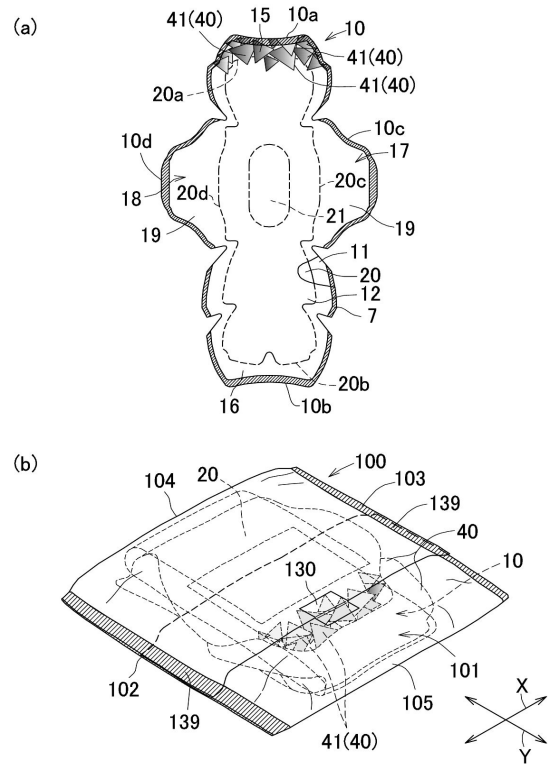
40

50

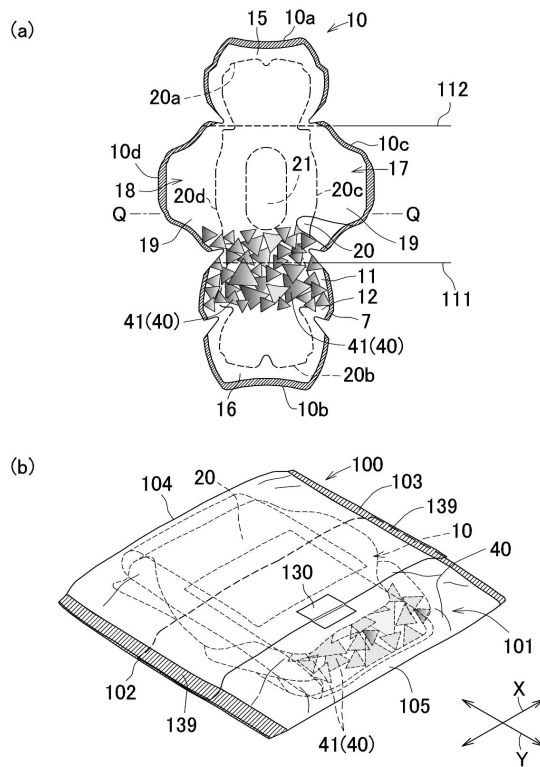
【 図 7 】



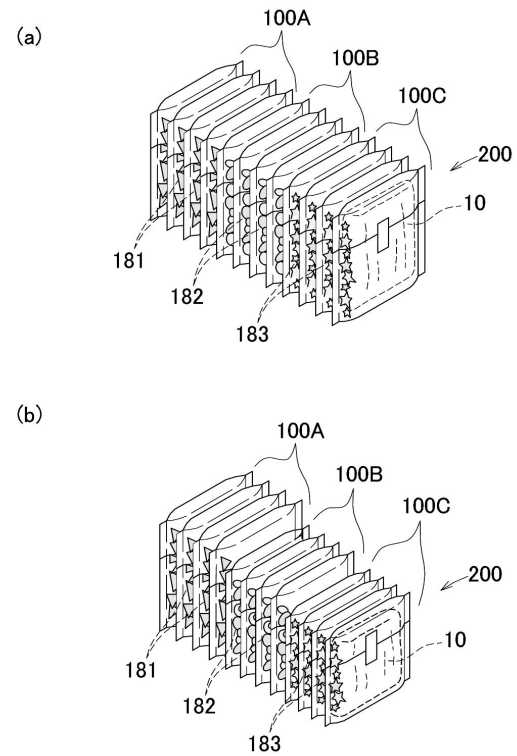
【圖 8】



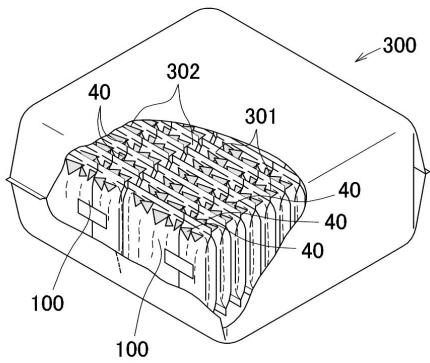
【 図 9 】



【 図 1 0 】

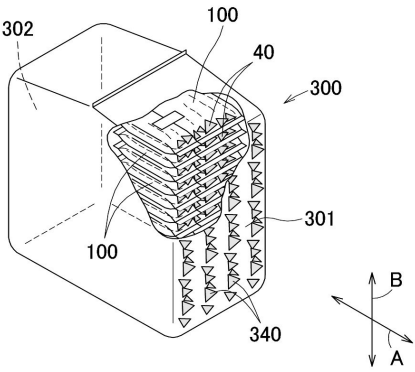


【図 1 1】

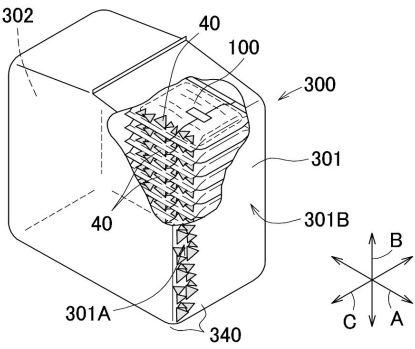


【図 1 2】

(a)



(b)



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (72)発明者 チャテウラバターノン カナボン
 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
- (72)発明者 野田 祐樹
 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内
- 審査官 須賀 仁美
- (56)参考文献 特開 2 0 0 8 - 1 7 3 5 0 6 (J P , A)
 国際公開第 2 0 1 1 / 0 1 3 2 0 8 (W O , A 1)
 特開 2 0 1 7 - 0 8 0 2 4 4 (J P , A)
 特開 2 0 0 8 - 2 8 9 6 0 2 (J P , A)
 特表 2 0 1 2 - 5 0 6 3 3 1 (J P , A)
 特開 2 0 1 3 - 2 1 5 2 6 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 6 - 4 0 1 8 3 (J P , A)
 登録実用新案第 3 2 1 6 8 6 9 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
 A 6 1 F 1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4